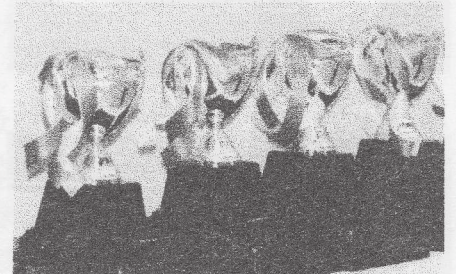


埼玉県インディアカ協会

<http://sia.web.infoseek.co.jp/>

埼玉県 中央大会



↑このカップを目指して!

平成20年度関東甲信越ブロック大会出場選考会を兼ねた中央大会が、平成19年11月23日(金・祝)に桶川市サン・アリーナにて開催されました。天候にも恵まれ暖かい一日でした。

各ブロックから勝ち上がってきた強豪128チームが愛と情熱を乗せたインディアカを追いかけ、コート狭しと熱戦を繰りひろげました。開会式には、先日おこなわれました全国スポレク祭の報告と関東甲信越ブロック大会の報告があり、いつもながら“埼玉強し”を再認識しました。

長年に渡り、インディアカの普及発展にご尽力下さいました加藤明参与が去る11月21日に急逝され、役員、選手一同、哀悼の意を表し、黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りしました。

最後に桶川市のインディアカ連盟の皆様には、朝早くからご協力をいただき有難うございました。 (記 稲葉 寿子)

各種目別 上位成績

種目	表彰順位	チーム	市町村	種目	表彰順位	チーム	市町村
一般女子	優勝	ザ・イーズ	さいたま市	シニア男子	優勝	ライラック	吉見町
	準優勝	アニモ	さいたま市		準優勝	秩父クラブ ファット	秩父市
	3位	サンファミリーA	春日部市		3位	TOP'S	所沢市
	3位	Beeline	さいたま市		3位	平沼VIC	川口市
シニア女子 ミドル	優勝	スバル Y-S	入間市	一般男女混合	優勝	ピンクハンサー	秩父市
	準優勝	ほたる	川口市		準優勝	プラスワン	所沢市
	3位	不動岡ラッキーズ	加須市		3位	関沢体育クラブ	富士見市
	3位	乱舞 Ash	さいたま市		3位	天元	さいたま市
シニア女子 オールド	優勝	インディーズ・S	日高市	シニア男女混合 ミドル	優勝	とんぼ	秩父市
	準優勝	ミッキーマウスクラブ	宮代町		準優勝	ザ・イーズ	さいたま市
	3位	スバル・S	入間市		3位	THE FUSION	さいたま市
	3位	飯能南翔	飯能市		3位	ちゃれんじ倶楽部	川島町
一般男子	優勝	グリーンジャイアント	三郷市	シニア男女混合 オールド	優勝	とっくりーず雅	春日部市
	準優勝	HAYATE	さいたま市		準優勝	スリーエスクラブ	白岡町
	3位	とっくりーず	春日部市		3位	桶川クラブベに花	桶川市
	3位	仲三	川口市		3位	長倉キングス	幸手市

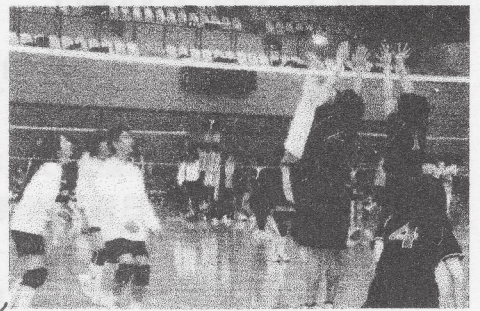


ランク別大会

平成19年12月9日(日)、越谷市の総合体育館に於いて「ランク別大会」が行われました。「埼玉県大会規定」で行われる最後の大会ということもあって、たくさんのチームが熱戦を繰りひろげました。

昨年同様、A、B、Cとそれぞれのランクに分かれて、コート別に対戦しました。今年の特徴は「1セット9分、試合間3分」という時間制で行われたことです。コートのチーム数により「1セットマッチ」「2セットマッチ」と分かれていましたが、同じコートの全てのチームと対戦することができました(競技部役員の皆さんは、12月1日の理事会の日に朝から、理事会終了以降も時間をかけて、対戦方法を考えてくださいました)。また、1セットマッチのコートでは、他コートのチームとの対戦が組まれており、親睦も深めることができました。試合間3分でもスムーズに行えました。

時間制で行ったことにより、一部のコートが遅くまで対戦するということなく、予定通りに閉会式を迎えることができました。入賞チームには、替え羽根が送られ、特別賞が上位ランクのチームと同じコートになったクラブに送られました。



各コート優勝チーム

コート	種目	ランク	チーム名	市町村	コート	種目	ランク	チーム名	市町村
1	女子	A	シュガー	さいたま市	8	シ女オ	ABC	ミッキーマウスクラブ	宮代町
2	女子	A	ガッツ	富士見市	9	男女混合	A	びたみん	ふじみ野市
3	女子	B	S-PAL	吉川市	10	男女混合	BC	ファット	秩父市
4	女子	B	アクセル 梓	さいたま市	11	シ混ミ	A	ザ・フュージョン	さいたま市
5	女子	C	EAST	幸手市	12	シ混ミ	A	ザ・イーズ	さいたま市
6	シ女ミ	A	すみれ	白岡町	13	シ混ミオ	なし	NAGAKURA	幸手市
7	シ女ミ	BC	NAGAKURA	幸手市	14	男子	なし	とっくりーず	春日部市

※シ女ミ→シニア女子ミドル、シ女オ→シニア女子オールド、シ混ミ→シニア男女混合ミドル、シ混ミオ→シニア男女混合ミドル・オールド



受付です↑



交流宣言! ↑
(越谷市のチームで〜す!)

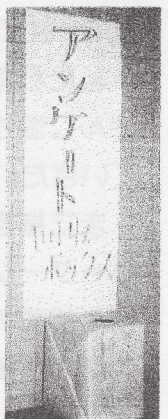


ナイスジャンプス!

これが

ナイススパイクへ!

広報部アンケート回収ボックス



迫力の男子↓



お父さんもバシッ! →

中村 正武指導審判委員会委員長に聞く！

今年、県協会に新たな組織が立ち上がりました。みなさんご存じですか？

指導審判員（現A・B級審判員）で構成され、情報の一元化、資質の向上、普及施策を推進する「指導審判委員会」です。

今回初代委員長となりました、中村正武氏（以下委員長）にその活動の内容をふくめ、「指導審判委員会に対する想い」について、お話を伺いました。（聞き手 広報部Hiro、（以下 広報））



中村 正武
指導審判委員会委員長

広報：本日はお忙しい中、お時間を割いていただきありがとうございます。指導審判員が上記のような活動ができるようにと指導審判委員会が設立されてから半年が過ぎました

委員長：はい。インディアカは「いつでも、どこでも、誰でも」手軽にできる生涯スポーツです。

私たち指導審判員会ではインディアカを、皆さんに愛され、親しまれるスポーツとして広めていきたいと思っています。

また指導者として教養的要素、専門的部分のリーダーシップを取ることで、資質を向上させ、また組織の運営に積極的に携わっていくことが使命・試練だと思っています。

広報：今回立ち上がったばかりでいろいろ難しい点や御苦労があるかと思いますが、中村委員長は今期どういったことを目標に何から着手されていく予定ですか？

委員長：まずは、『指導審判員（現A・B級審判員）同士がいかに関係を築くか』が、ポイント、目標ですね。

『一人一人が生きた活動をしてこそ組織の力は大きな発展をみる』そして『取り組んでいく過程にこそ、資質の向上と人の和という宝がある』

そう感じています。

広報：コミュニケーションをはかるために、どういったことをなさっているのですか？

委員長：立ち上がってからまだ半年ですが、すでに宿泊研修1回を含め、3回のLJ研修会・会議等を行っています。これだけ密な研修予定にも関わらず、毎回20名以上が参加し、みなさん非常に意欲的に取り組んでいると感じています。

同時に懇親会などを通してコミュニケーションが深まりますね。勉強する場や横のつながりの場は大切です。

その中で、情報や資料を共有するだけでなく、その情報や資料を水平展開していけたらと思います。

広報：今お話にもありましたが、『情報の共有化』についてもこの会の大きな役割だとおもいますが、どのように進めていらっしゃるのでしょうか？

委員長：各メンバーが持っている情報や理事会での情報などを集めることから始めています。今までは、部会が縦割りのために指導審判員が各々独自で持っている情報は、横には流れにくかった。また、県理事会・評議員会の情報も知らない方が多かったように思います。

ですから、その両方の情報をまず集めます。そして、その中で必要なものは文書化し、流すことで『情報の共有化』を図ってきています。

その情報源となるものは、指導審判員には限らず、先日は、準備運動が得意な人にその資料をもらいました。それも精選、保存し、必要があるときにLJに流していきたいと考えています

広報：つまり、『コミュニケーション』ということを中心に、今期の取り組みはすでに着々と始まっていると



Hiro

るということですね。

委員長：そうですね。指導審判員間で、情報や資料を水平展開していければ、会員の皆さんにも、大会などを通して、共通のお話し（指導）ができるということですね。

広報：先ほどのお話にありました『取り組んでいく過程にこそ、資質の向上と、人の和という宝がある』という言葉に私は非常に感銘いただきましたが『取り組んでいく過程』の大切さは、どのような場で伝えていこうとお考えですか？

委員長：指導審判委員会が立ち上がる前からやって来たことですが、『率先垂範』ということですね。

広報：それは、まず自らやってみせるということ？

委員長：そうですね。こちらがまず取り組んでそれを見せることによって、行動してもらうということですね。

人にはそれぞれ得意なことがあると思っています。それについて、他の方に伝えてもらい、それを不得手とする人がそれに取り組む、この『取り組む』という姿勢が『過程』にあたると思います。

広報：それは、先ほどの『一人一人を生かし』という部分にも繋がっているんですね。

では『人の和という宝がある』。これについては指導審判委員会ではどのように体现しようとしていらっしゃるのですか？

委員長：指導審判員というのは、クラブあつての存在であるという意識を大切にしたいですね。

指導審判員だからといって偉いわけではない。そのクラブを大切に感じ、そのクラブの人に有益なことについて指導をしていく、同様に市町村の協会や連盟を大切に、その協会や連盟に同様に指導をしていくことが必要だと思います。そこに『人の和』があります。それでこそ、市町村から推薦され、指導審判員になれるのですから。

広報：では、『指導者として教養的要素、専門的部分のリーダーシップ』についてもう少し詳しく

くお話をお聞きしたいのですが？

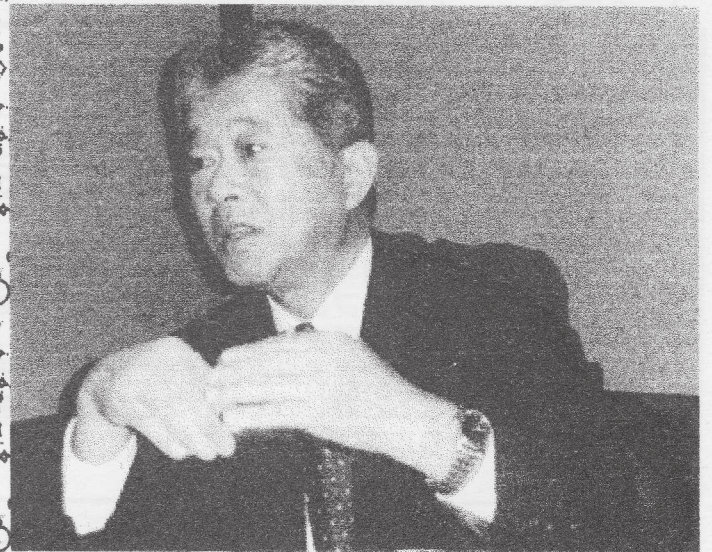
委員長：まず、『指導者としての教養的要素』というのは、例えば『人を傷つけない』ことや『模範になる』ということでしょう。頭ごなしではいけないと思っています。その人が聞こうと思うような指導ができる、そのためには普段の生活自体から『模範となる』言動が大切になってくるでしょう。後ろ指を指されるような言動は、普段の生活の場から考えなくてははいけません。普段の言動が大会などのような場でも出てくるものですよね。『リーダーシップ』は、自分が得意とする部分で他のしじを引っ張っていく牽引者となることでしょう。

広報：では、最後に会員の皆さんへのメッセージをお願いします。

委員長：指導審判員は会員の皆さんに『信頼される』存在でありたいとおもっています。また、それだけでなく『相談しやすく』、『親しみやすい』存在でもいたいと考えています。ですから、委員長として、指導審判員の方々には、そんな存在になれるよう、努力してほしいですし、会としても資質の向上に努めていきます。

会員の皆さんには、その努力の姿を見ていただくと同時に、どんどん相談をして、親しみを持って関わっていただくと嬉しいですね。これからもこの指導審判委員会に、みなさまのご協力を、よろしくお願いします。

広報：本日は本当にありがとうございました。



対談を終えて・・・

身振り手振りを交え、そして終始笑顔でお話しされる中村委員長の中に熱い思いが感じられたHiroでした。今回、今まで会員の皆さんが、気付かなかった、知らなかった点もお知らせすることができたかと思えます。

このように県広報部ではみなさまの知りたい聞きたいにお応えいたします。ご意見などお待ちしております。

